

# 英米文化学会会報

第70号

平成19年2月15日



ミズーリ河を遡って太平洋へ抜ける道を探していたルイス&クラーク探検隊は、1804年9月16日、向こうに見えるミズーリ河の対岸で大雨に湿った携行物を乾かした。行く手は不安に満ちていた。苦難の末、目的を果たして帰路についた隊は、1806年8月28日、再び同じミズーリ河畔に立ち寄った。(撮影：佐野、2006年。サウス・ダコタ州I-90レストエリアのルイス&クラーク記念公園より西方を望む)

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第122回例会のお知らせ
- ◆ 分科会担当より 分科会メンバー募集のお知らせ
- ◆ 大会担当より 英米文化学会第25回大会 発表者募集のお知らせ
- ◆ 書評
- ◆ 財務から会費納入のお願い
- ◆ 事務局より 学会暦・お願い・会員消息

### ◆英米文化学会 第122回例会のお知らせ (分科会担当理事: 小林弘)

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成19年3月10日(土)午後3時00分～5時30分

午後2時30分受付開始

場所：日本大学歯学部3号館 2階第5講堂 <地図は3ページにあります>

(JR 御茶ノ水駅・千代田線 新御茶ノ水駅 都営新宿線 小川町駅他 下車)

当日会費：100円

英米文化学会総会 : 午後 5 時 30 分～6 時 例会と同じ会場にて開催します。

懇親会：レストラン プリオール（例会会場に隣接の中央大学記念館 1 階）

会費：1,000 円 午後 6 時 30 分～8 時 30 分 TEL 03-3219-6085

懇親会は 40 周年記念を兼ねて盛大に行いたいと存じます。

懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

## 研究発表

### 1. 父性と母性の大地

—ラズーモフに於ける喪失と回復—

(15:10—15:50)

発表 渡辺 浩 (八戸大学)

司会 塚田英博 (城西大学)

### 2. 現代アメリカ写真における〈西部〉イメージの回帰

—ロバート・アダムスの *New West* を巡って—

(15:50—16:30)

発表 日高 優 (群馬県立女子大学)

司会 佐野潤一郎(創価大学)

————— 小休止(16:30—16:40) —————

### 3. キクユ族作家がとらえた〈中心〉とは

—グギ・ワ・ジオンゴの『泣くな我が子よ』における植民地主義と教育—

(16:40—17:20)

発表 三井美穂 (拓殖大学)

司会 君塚淳一 (茨城大学)

## 研究発表抄録

### 1. 父性と母性の大地

—ラズーモフに於ける喪失と回復—

渡辺 浩 (八戸大学)

コンラッド(Joseph Conrad, 1857-1924) の『西欧人の眼に』(*Under Western Eyes*, 1911)は、孤独で愛情に対する感受性に乏しい主人公ラズーモフが、人間に対する感情、特に父性と母性の愛情という面での経験を通して、精神的な遍歴と発展を遂げてゆく経緯を描く作品である。ロシア人という以外にほとんど自己の帰属性をもたず、また抽象的な思索を好み、実社会での人との関わり合いに興味を示していなかったラズーモフが、凶らずもロシア革命期の激動の中、特別な立場にある人物たちと交流をもつことになる。その中で、孤独な主人公が「父性」というものを初めて意識し、ソフィアとナタリーという女性たちとの交流により「母性」にかかわる愛情を受け入れるプロセスが示される。

以上の様な視点から、主人公の「父性」と「母性」に関わる精神的な経験と成長を分析し、最終的に、ラズーモフの孤独を象徴しているようなロシアの凍てつく大地が、母なる大地へと変わって行くプロセスを考察する。その経緯をたどることにより彼の末路の悲劇性と革命家ソフィアの不可解な行動の意味も考察する。

## 2. 現代アメリカ写真における〈西部〉イメージの回帰

—ロバート・アダムスの *New West* を巡って—

日高 優 (群馬県立女子大学)

アメリカの風景にとって、写真は特権的なメディアのひとつとして機能してきた。写真は西部開拓の記録という国家建設の起源と切り結んだメディアだったのである。その写真において、1970年代から80年代にかけて再び西部が時代のトポスとして浮上してくる。

「ニュー・トポグラフィクス」や「再撮影プロジェクト」に象徴されるこの潮流にあって、ロバート・アダムス (Robert Adams) はその現代アメリカにおける西部風景写真ブームを牽引した最も代表的な写真家のひとりである。この時期、写真家は西部の風景に向かってどのような視線を注いだのか。本発表では、写真というメディアの特性を踏まえつつ、ロバート・アダムスの仕事 *New West* (1974) を分析することによって、過去なき故郷なき国アメリカにおいて、西部というトポスが写真の主題として回帰してくる様態を明らかにする。

## 3. キクユ族作家がとらえた〈中心〉とは

—グギ・ワ・ジオンゴの『泣くな我が子よ』における植民地主義と教育—

三井美穂 (拓殖大学)

脱新植民地主義や反帝国主義が叫ばれるようになって久しいが、21世紀もその必然性には変わりがないようだ。ケニアのキクユ族作家グギは1990年に“Moving the Centre”と題し多文化主義を主張する講演を行ったが、すでに1964年発表の一作目『泣くな我が子よ』から同じテーマを貫いている。そのひとつが武装勢力〈マウマウ〉の扱い方で、〈マウマウ〉はゲリラだとする西洋の視点を拒絶し、キクユ族の目で見つめ直す。

植民地政府に土地を奪われたキクユ族は教育こそ土地奪回の悲願を達成する第一歩と信じたが、この時代の教育とは宗主国の教育だった。『泣くな我が子よ』の主人公の少年ジョロゲも教育に希望を見出していたものの、次第に矛盾を感じはじめる。1950年代という独立前のケニアを背景に、グギはいかにこの小説で“Moving the Centre”を描いたのか、ジョロゲとその家族の変化を見ながら論じる。

### \* 例会会場 (日本大学歯学部3号館)



JR・地下鉄：JR 御茶ノ水・千代田線新御茶ノ水・都営新宿線小川町・丸ノ内線御茶ノ水・丸ノ内線淡路町

## ◆ 分科会委員会（分科会担当理事：須田理恵）からメンバー募集のお知らせ

今回、新たにふたつの分科会が設立されることになりました。

参加ご希望の方は、メールにてお申し込みください。メール以外の連絡先はございません。

メールタイトルには「分科会」という文字とご自身のお名前を入れて頂きますようお願いいたします。

[例] ○○分科会参加希望（高取）

### <おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただいております。メール作成のときには、お手数とは存じますが、@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

分科会名： 発禁文学研究分科会

設立趣意： 出版の歴史は、規制の歴史といえるくらい、モノ書きは規制を受けるものです。規制も、自主規制、法規制、社会規範による規制などが考えられます。本分科会は、国家、社会、宗教と大きく関わる存在として捉え、歴史的背景などからも、このような規制について研究し、最終的には出版物の形にて、研究を世に問うことを目的とします。つきましては、自主規制から発行禁止など出版物に対する規制を受けた作品・著者について、研究したい方を募集します。メールなどでの相談を含みますので、メール（Censorship(at)SES-online.jp）にてご相談できる方のみとさせていただきます。

発起人： 小田井勝彦、佐藤治夫、須田理恵

分科会名： 認知言語学によるテキスト研究分科会

設立趣意： 平成18年3月に「認知言語学によるテキスト研究分科会」を新たに立ち上げます。これは人間の認知能力に焦点を当てて言語（英語）を分析し、テキスト開発につなげようというものです。認知言語学に興味・関心があり、ある程度の基礎知識がある方がいらしたら、ご参加いただきたいと思っております。参加ご希望の方は、3月末日（厳守）までに（Linguistics(at)SES-online.jp）にご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

発起人： 森千佳子、松谷明美、佐藤順子

## ◆ 英米文化学会 第25回大会のお知らせ（大会担当理事：曾村充利）

第25回大会は以下の要領で開催されます。

開催日程：平成19年9月8日（土）

場所：日本大学歯学部（3号館）<地図は3ページにございます>

つきましては、上記大会の研究発表者を募集いたしますので、ふるってお申し込みをお願いいたします。発表時間は30分です。

発表希望の先生は、ご氏名、所属（勤務先）を明記の上、研究発表題名と抄録（400字）を以下のアドレスにメールでお送りください。

申込締め切りは4月10日です。

発表申し込み先：

大会担当理事 曾村 充利 e-mail: MitsutoshiSomura(at)SES-online.jp

## ◆【書評】

ベル・フックス『とびこえよ、その囲いを

——自由の実践としてのフェミニズム教育』

監訳：里実実 共訳：堀田碧・朴和美・吉原令子（新水社 2006年）

[原著：Teaching to Transgress (1994)]

吉田俊実 （東京工科大学）

1952年生まれのアフリカ系アメリカ人—bell hooks で知られる Gloria Jean Watkins は、黒人女性としてフェミニズム運動に深くかかわり、かつその理論化を目指し、また理論化の必要性を根気強く説く思想家であり、文芸批評家である。そして、なによりも教育者である。この一見多岐にわたる彼女の活動とその思想の広がりこそ、ベル・フックスの最大の魅力であり、フェミニズムの可能性ともいえよう。教育者としての彼女の思想がもっとも明確に著されているのが、今回大変読みやすい日本語で訳出された『とびこえよ、その囲いを』であり、第一章で語られる「関与の教育」とその教育実践の軌跡を、自ら辿る営みとすることができる。

アメリカ公民権運動による「成果」の恩恵を直接的に受ける世代であったベル・フックスは、人種隔離政策の廃止がじつは黒人の生徒たちを白人優位の教育システムに従わせることを意味していたという、「共学」の高校生時代を過ごす。「解放にむけた使命を持つ者として」の自負に貫かれた教師たちによって「学ぶ喜び」を与えられた黒人学校での体験、そして「共学」によって強まる、人種差別への抵抗と社会変革への意志は、さらに人種差別と性差別とが重層的に黒人女性のアイデンティティを構成していることへの「意識化」を伴って、「自由の実践としての教育」にベル・フックスを導く。

自らの人生—抑圧や搾取によって構成される黒人女性というアイデンティティと身体性、人種差別・性差別・階級差別をめぐる自らの経験—をまるごと差し出しながら学生たちとかかわる教育のみが、学生の意識と知性・身体を揺さぶり、社会変革へと能動的に向う人間を育てることができる。このような教育実践の道しるべとして、ベル・フックスはふたりの教育者を挙げる。ひとりには1960年代のブラジルで貧困層の自立と解放を目指した教育実践で著名なパウロ・フレイレであり、もうひとりにはヴェトナムで反戦と戦争被害者救済活動に従事した禅僧ティク・ナット・ハンである。社会的・精神的くびきから人々を解放へと導く実践者たちから学んで、ベル・フックスはみずからの教育を「関与の教育学」(Engaged Pedagogy)と呼ぶ。教師みずからの生を晒し、同時にみずから位置(ポジショナリティ)を意識化・顕在化することによって、初めて「さまざまな学生」との対話が可能になるという指摘に、教育に携わるあらゆる人間は耳を傾けるべきであろう。

訳者のお一人が民族的マイノリティの立場から「日本でベル・フックスを読むことの意味」に触れておられる。ベル・フックスがだれにどの立場で読まれるかによって、その意味が変わるということをこの短い文章は端的に示している。現在、日本の「(階級)格差化」を憂う声が多い。しかし、そもそもその「格差社会」に民族的マイノリティや性的マイノリティは入っているのだろうか。また、その格差とジェンダーはどのような関係なのだろうか。マジョリティ側に立つ教師たちは「さまざまな学生たち」に届く授業をしているのだろうか。一人一人の教育者がみずから問うことをこの本は求めている。

## ◆財務からのお願い（財務担当理事：山根正弘）

2月2日、2年及び3年間未納の会員に「納入のお願い」として文書を発送致しました。今年度分の会費納入がお済みでない方も、お早めに郵便振替にて振込み下さい。学会運営に、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。納入状況は、財務担当の山根（MasahiroYamane(at)SES-online.jp）までお問合せ下さい。

年会費：5,000円

郵便振替番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

## ◆事務局（事務局担当理事：大東俊一）より

1. 平成19年度の学会暦が決定しましたのでお知らせいたします。

	第123回例会	第25回大会	第124回例会	第125回例会
例会・大会	6月9日	9月8日	11月10日	平成20年3月8日
発表申込締切	4月9日	4月8日	9月10日	平成20年1月8日
会報投稿締切	71号=5月4日	72号=7月3日	73号=10月5日	74号=平成20年2月3日
会誌『英米文化』 投稿締切	平成19年10月31日			

2. 会員の皆様方には E-メールのアドレスをご登録頂いておりますが、変更のある方、新規にご登録頂ける方は、速やかに事務局(ShunichiDaito(at)SES-online.jp)までお申し出ください。

3. 本学会のホームページには会員による出版物を掲載しております。現在の掲載分以外にありましたら、著者名（共著を含む）、書名、出版社、出版年、ISBN または ISSN 番号、定価など必要な書誌事項を事務局までお知らせください。（大学・高校用の教科書等は除く）現物のご送付は、謝絶させていただきます。

## 4. 会員消息

### <新入会員>

中林正身

英米文化学会会報 第70号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内

Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>